

原油価格とOPECプラス の動向をどう見るか

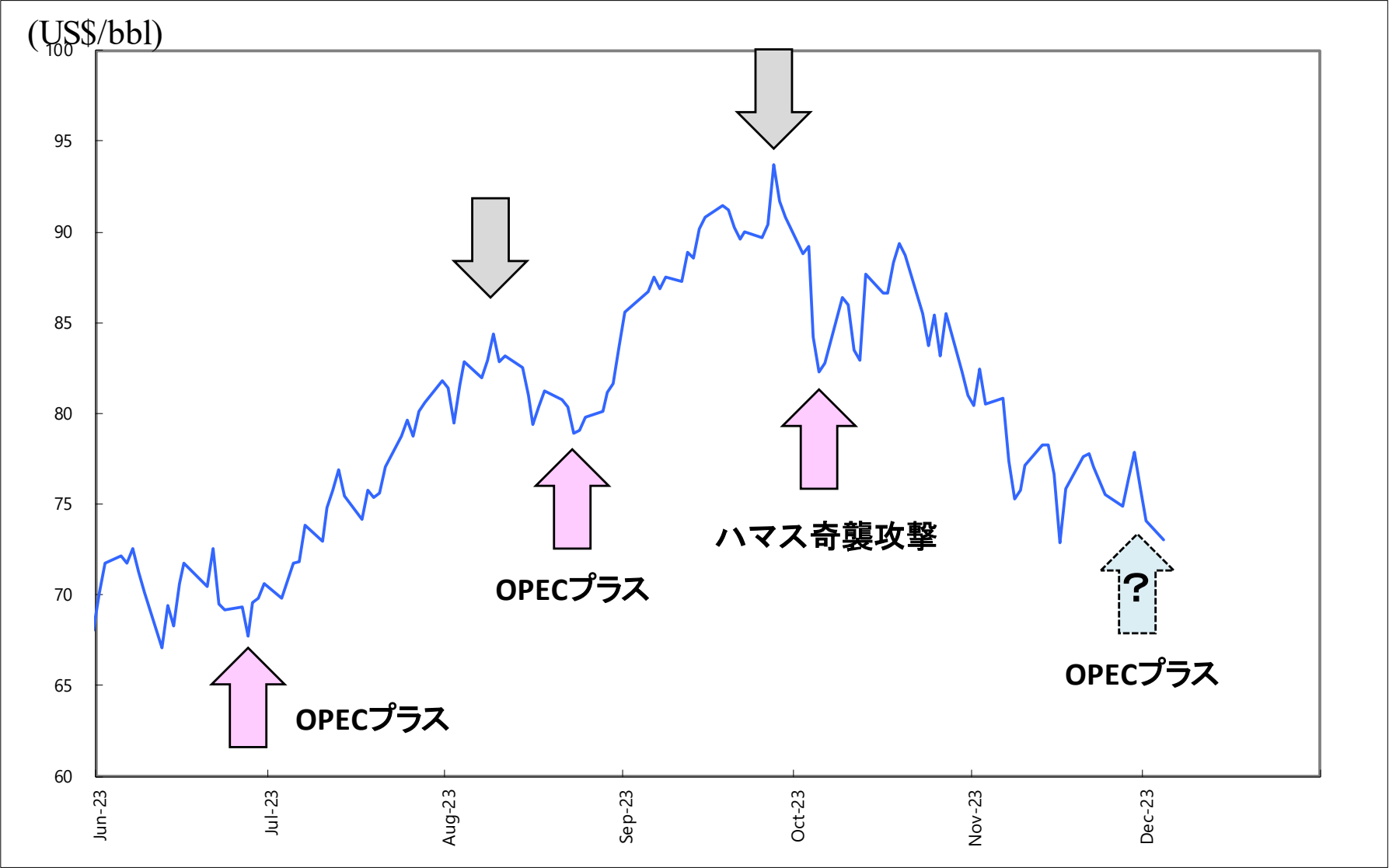
第63回 IEEJエネルギーウェビナー

2023年12月5日

(一財) 日本エネルギー経済研究所 専務理事・首席研究員
小山 堅

変動続ける原油価格

WTIはガザ衝突後、80ドル前後を中心とした推移へ



11月30日のOPECプラス会合の結果概要

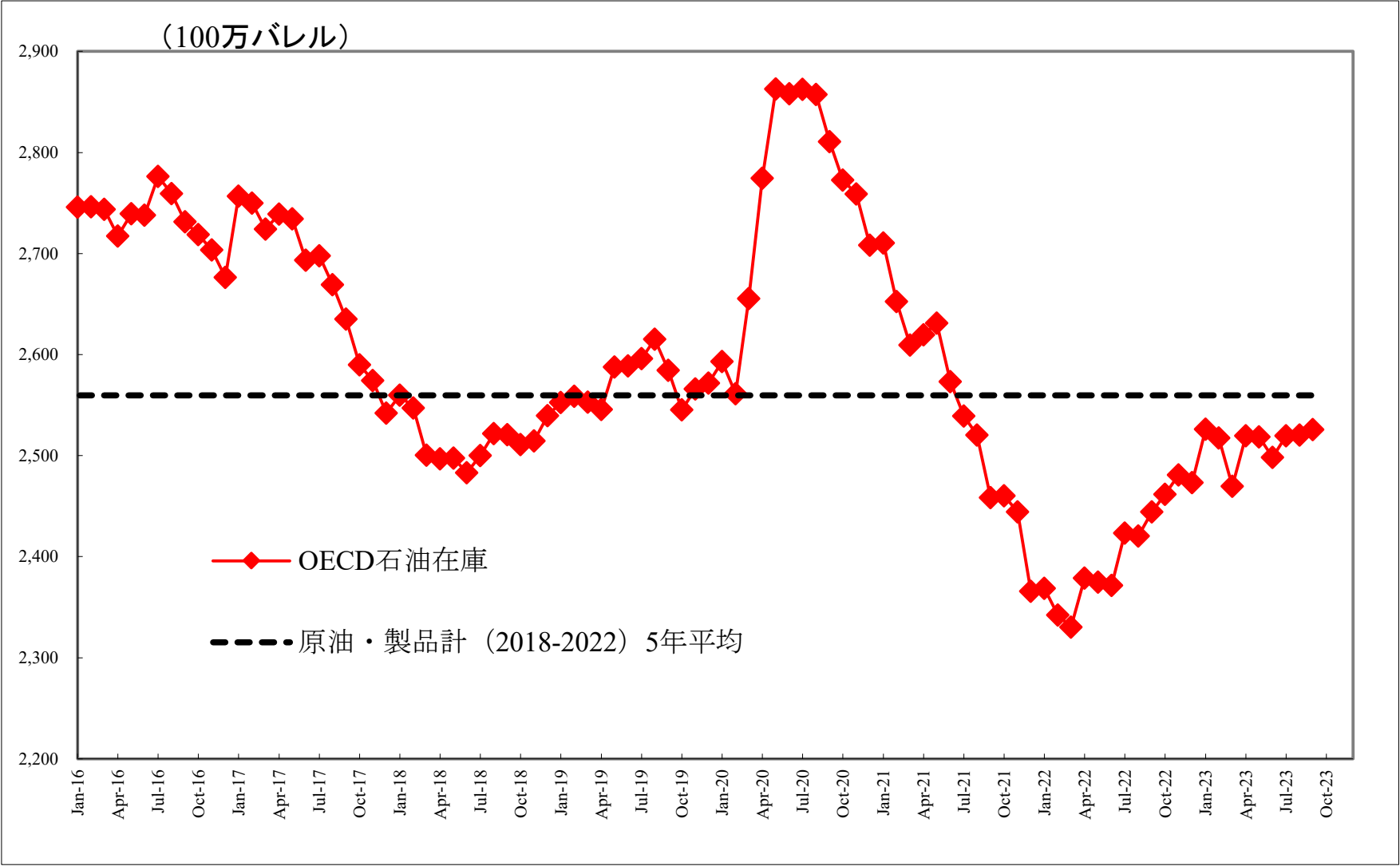
- OPECプラスとしての公式な減産強化は無し
- サウジアラビアなどの自主的な追加減産220万B/Dを発表
 - サウジアラビア100万B/D、イラク22.3万B/D、UAE16.4万B/D、クウェート13.5万B/D、カザフスタン8.2万B/D、アルジェリア5.1万B/D、オマーン4.2万B/Dおよびロシア輸出削減50万B/Dなど
- 上記減産は2024年1月1日から同3月末まで
- その後は市場の状況を見て徐々に調整（縮小も）
- 2024年1月からブラジルがOPECプラスに参加（具体的な「参加内容」は不明）
- 次回OPECプラス閣僚会合は2024年6月

OPECプラス会合の結果をどう見るか

- 閣僚会合前から、産油国間の調整が難航（当初予定の閣僚会合日程の延期も発生）
- OPECプラスとしての公式減産強化ができれば原油価格対策としては「ベスト」、しかし一部産油国の根強い反対
- 単に「合意失敗」は、原油価格下支えにとって「最悪」
- 自主減産強化（数量および期間）の調整で「セカンドベスト」の確保へ
- 単独の減産強化を選択しなかったサウジアラビア
- ブラジルのOPECプラス参加をどう見るか
- 予想より「弱く不透明なメッセージ」で油価は下落。しかし自主減産が実行されれば需給は均衡の方向へ

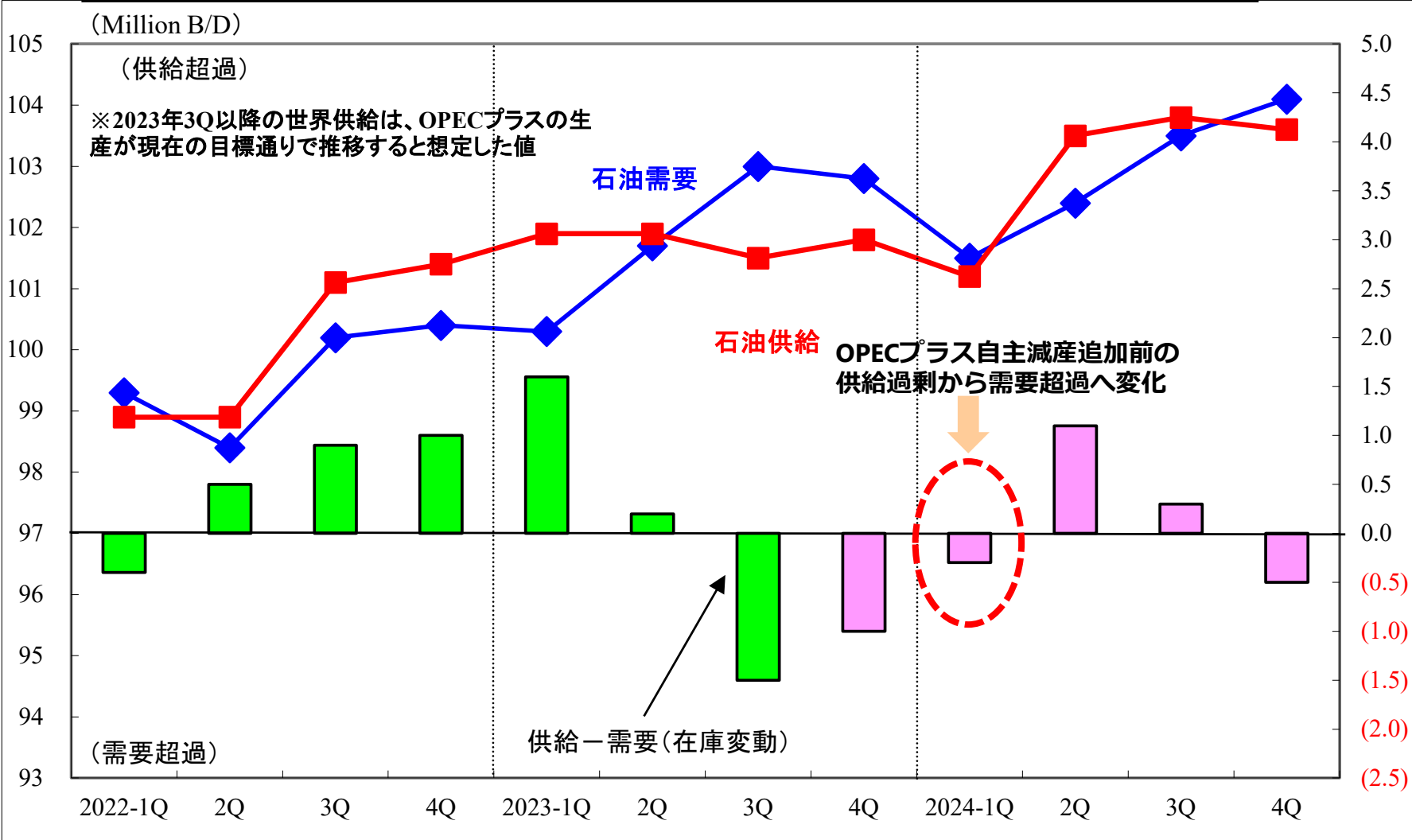
OECDの民間石油在庫動向

20年後半から在庫急減、22年初から反転も引き続き過去5年平均を下回る。



2024年までの石油需給見通し

2023年1Q まで供給超過、年後半は需要超過へ。しかし...



(出所) IEA「Oil Market Report (2023年11月)」を参照し、最新のOPECプラス自主減産を加味して筆者作成

当面の国際石油市場と原油価格をどう見るか

- OPECプラスの価格防衛姿勢は基本的に下支え要因
- 「OPECプラス」決定の意味：メッセージVS需給バランス
- 2024年1Qはほぼ需給均衡？
- 世界経済・中国要因・気温要因等の影響も重要
- パレスチナ情勢の影響は？その他の供給支障？
- 当面はWTI80ドル前後を中心にプラスマイナス10ドル程度。上記要因次第で原油価格が大きく振れる展開も。